

オオウラギンヒョウモン

Fabriciana nerippe (C.&R.Felder,1862)

タテハチョウ科

熊本県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省カテゴリー

絶滅危惧ⅠA類 (CR)

選定理由 全国極限、県内極限、近年減少、その他（希少）

生息環境 平地から低山地にかけての日当たりのよい、スミレなどの食草が生育するシバ草原とススキ草原の混在地

生息状況 県北地域、県央地域、県南地域に記録があるが、宅地化の波及、農営形態の変化に伴う草原の荒廃、観光地化、道路建設などによって現在は県北地域、県央地域にのみ生息地が残っている。生息地数は減少したが、現在、県北地域、県央地域での生息は良好である。



撮影:八尋勇

生存への脅威 道路工事、農地開発、観光開発、草地の開発、管理放棄、農薬使用、採集、軍事演習、火山活動、自然遷移

特記事項 採草、火入れなどの人為的な環境維持が必要。多様性条例（指定希少野生動植物）。

※「レッドデータブックくまもと2019」より抜粋

（県ホームページ：<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/52/50813.html>）